

平成 22 年度 事業報告

主任研究員 大田浩右

主任研究員 堀 忠雄

主任研究員 大田章子

○睡眠障害研究

睡眠障害研究については、堀忠雄所長を中心とし、不眠や睡眠時無呼吸症候群（SAS）に関する調査、睡眠環境の相談・カウンセリング事業などを昨年度に引き続いて実施した。

また、明神館脳神経外科と協力して作成している「ムズムズ脚症候群」患者のデータベースを分析し、7月に行われた日本睡眠学会で発表した。さらに、睡眠時無呼吸症候群（SAS）患者のうち、軽度または中等度の患者において、いびきや無呼吸は体位依存性が強いことに着眼し、横向き用自動昇降枕の使用効果調査を開始した。この結果については平成 23 年度日本睡眠学会で発表予定である。

○脳卒中・血管内治療研究

脳卒中・血管内治療研究グループについては、脳神経センター大田記念病院と協同し、脳卒中患者の臨床情報を蓄積した「脳卒中データバンク」を用いた臨床研究などを実施した。脳卒中の主要な国際学会の一つであり、採択率が3割程度とされる international stroke conference にて、二題の演題を発表することができた。

○高齢者保健医療福祉助成事業

今年度は、リーマンショック以降の景気後退、極端な円高傾向により、事業費が大幅に減少した影響を受けて、本事業の実施は見送った。

○市民健康啓発事業

市民を対象とした啓発事業を継続して実施した。11月に自動車事故対策機構、2月には愛媛県越智郡上島町健康推進課からの依頼で堀所長が睡眠衛生に関する講演を行った。また、同じく2月に神辺商工会議所において「長生きの秘訣とは」という演題で大田理事長が講演を行った。この啓発事業は平成 23 年度もすでに数件申込が入るなど、参加者から好評を得ており、引き続き実施する予定である。

学会発表：

●Kaneyuki M, Kaihara K, Nagahisa K, Yumite M, Ota A. Effects Of Elevating Head-of-bed On Blood Pressure And Carotid Blood Flow In Acute Ischemic Stroke Patients. 11 th International Stroke Conference; 2011 Feb 8-11; Los Angels, United States.

●Fujii H, Ohtsuki T, Takamatsu K, Kubo S, Sato K, Ota A, Ota T, Kuriyama M, Matsumoto M. The Relationship Between Blood Glucose Fluctuation And Neurological Outcome In Acute Ischemic Stroke Patients. 11 th International Stroke Conference; 2011 Feb 8-11; Los Angels, United States.

●大田浩右、大田章子、貝原共子、三嶋邦恵、堀忠雄
「薬物治療が奏功した、全身型のレストレスレッグス症候群」, 第35回日本睡眠学会 ; 2011 . 7 . 1-2 名古屋,日本 .

論文；

Nishigaki M, Ota A, Kusakabe T, Matsuzaki C, Taguchi S, Kazuma K. Feasibility and efficiency of indirect lifestyle interventions in offspring of type 2 diabetic patients. Public Health Genomics (in press)